

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 5月号

1. 役員が担い手を訪問！

J A 鳥取中央の栗原組合長、常勤役員が担い手農家を訪問し、現場の課題やJ Aへの意見、要望を聞き取りした。栗原組合長は倉吉市で4月12日、プリンスメロンを栽培する佐々木元さんを訪問した。



「生産資材の値上がりによる経営への影響」が挙げられ、栗原組合長は「すべての品目ではないが、共同購入によるスケールメリットを発揮していく」と応えた。

4月7日、蔵増保則専務が三朝町で三朝神倉大豆生産部部長の米原章太郎さんと同部役員の子川博恒さんを訪問した。大豆の生産に必要な地力向上には十分な堆肥を必要とし、「継続的な堆肥購入による価格の見直し」と「新商品の開発」の要望があった。

蔵増専務は「高品質な大豆生産のため、価格を見直し堆肥を供給していきたい。今後は生産、加工、販売を強化し、生産者、行政、J Aが一体となって新商品の開発など協議の場をつくり検討したい。」と話した。

2. 地域の特徴を活かした活動！（J A 鳥取中央女性会専門部会）

J A 鳥取中央女性会は4月22日、倉吉市で女性会専門部会を開催した。会員やJ A関係者ら約60人が参加し、2022年度の活動計画を各専門部会で話し合い、地域の特徴ある活動に取り組むことを確認した。



営農部は、北条ワインの工程見学、生活部は大山乳業見学やスイートコーン収穫、文化部はイチヨウの木を題材にした箸作り、福祉部はレインゴキ体操や手芸教室を予定している。

体験研修では、アウトドアコードで作る防災ブレスレットを完成させた。

遠藤聖子会長は「新型コロナウイルス禍で活動が厳しかった。今年は活動を通じて、会員同士がつながり、交流を図りたい。」と呼び掛けた。

3. 第3回「星空舞」栽培コンテスト表彰伝達式

J A鳥取中央は3月28日、倉吉市で第3回「星空舞」栽培コンテストの表彰伝達式を開催した。

管内からは優秀賞に福田光博さん、金賞に福有徹さん、向井信博さん、門脇広行さん、「星空舞」ブランド化推進協議会長賞に同J A「星空舞」地域研究会が受賞した。

同コンテストは、鳥取県産米改良協会主催で玄米の整粒率と食味値の合計値、また審査員の目視により審査された。

倉吉市で昨年、星空舞を1ha栽培していた福有徹さんは、「粳から手塩にかけて育てたのがよかった。3回目の挑戦でやっと受賞でき、今年も賞が取れるよう栽培に力を入れたい。」と話した。



以上